

内モンゴル東部農村地域におけるモンゴル人男性の結婚相手選択意識の変容  
—未婚男性のライフストーリーの分析を通して—

WU YINGGA(中央大学)

本研究では、内モンゴル東部農村地域における年齢層が異なる未婚男性二人のライフストーリーを分析することで、結婚難問題が普遍的に存在している農村社会で、モンゴル人未婚男性たちは自分の結婚市場価値をどう判断し、それが結婚相手選択意識とどう関連しているかを明確にしたいと思う。1980年代中国の男女出生率がアンバランスな影響もあり、今日に至っては結婚適齢期の女性不足問題や男性の結婚難を引き起こしている。男女比率がアンバランスな結婚市場でも、特に交通が不便であり経済発展が遅れている貧困農村地域の男性はさらに結婚相手が見つかりにくい状況にある。それにより晩婚や一生独身で残される可能性は必然的に高くなっている(張 2013)。それに、第三産業の発達に伴う農村地域の出稼ぎの人数は男性より女性の方が遥かに多いという事実がある。都市では未婚女性の割合が未婚男性を上回っているため、都市の未婚男性は結婚のチャンスがあるうえに選択肢も多い。さらに、農村地域の未婚女性も結婚相手を都市や鎮などの交通が便利で経済的に発展した地域において探す傾向にあるため、その流れはより加速している(張 2013)。逆に、農村地域に残された未婚男性の結婚がより難しくなっている。

農村地域に未婚男性が集中するその理由については、長期にわたる男尊女卑思想による男女出生率のアンバランス、出稼ぎで女性が男性より仕事につきやすく、そのまま都市で結婚する人が多い(李 2004)。それに、男性側が結婚に関わる費用の準備や結婚に備えて家を建てるため、経済条件も重視され、また、伝統的農村社会では、若者は親戚や仲人を通して付き合うことが多かったが、現在は、自由恋愛の現代婚姻モデルが普遍に存在することにつれ、男性の付き合う機会が少なくなっている(李・杜 2009)。内モンゴル農村地域に目を移すと、既存研究では、男性の結婚できない理由について出稼ぎの女性は貧困農村地域の生活より、都市の生活を望み、都市戸籍を得るために、都市の収入が低い男性や自分より年上の男性と結婚する。一方、出稼ぎの男性は文化程度が低く、仕事が安定せず、それに、農村生活習慣を変えず、結婚相手を見つけにくい(呂 2018)と述べている。また、都市部に出稼ぎに行った若い女性はそのまま滞在し続けるが、一旦都市部に行った農村地域の男性は農家や牧畜家の家業を継ぐために再び村落に戻ることが強いられており、その結果農村地域の男性の割合が次第に高くなり、結局結婚難の問題まで発展してしまっていると分析している。その他に、一部の男性がギャンブルやアルコールの誘惑に負け、労働意欲や自己管理能力がより一層低下し、年を追って高くなる婚資の捻出に苦しむようになった結果、結婚できなくなった現象も生じている(張 2015)。

以上のように、先行研究では、農村地域の未婚男性の結婚に関して男性の結婚難を取り上げることが多く、それに結婚難の要因についても多方面から分析されている。しかし、結婚難問題が普遍的に存在している農村社会で、未婚男性たちはどう自己評価をし、自分の結婚市場価値をどう判断し、結婚相手をさがしているかについて必ずしも明らかにしていない。本研究では、以上の分析視点を踏まえ、年齢層が異なる未婚男性の26歳のAさんと39歳のBさんのライフストーリーについて語ってもらった。このような2人の男性のライフストーリーを分析することで、縦断的に未婚男性たちの結婚相手選択意識の変容をとらえることができると思います。

その結果、未婚男性たちの結婚市場価値と結婚相手選択意識が年齢と共に変容している。未婚男性たちは自分が25歳まで結婚できると考えていたため、相手への外見や教育歴などについても要求が高かった。26歳になると段々要求が弱くなり、2人の性格が合えば良いということで、30歳後半になると自分と一緒に生活してくれる人でいけば誰でも良いとなってくる。また、年齢層の違いから、Aさんは周りの人から一番圧力を感じている時期であったという点である。だが、自分がいつか結婚できると思っているため、プレッシャーを受けても結婚相手に対してまだ要求がある。もう一回出稼ぎに出るか、お見合い活動などに参加すれば結婚はいつかできると信じており、結婚願望も高い。逆にBさんは39歳であることで、結婚への期待→他人の圧力→相手への要求の変化→結婚への断念→彼女ができたなどのあらゆる段階を通過しているということが期待している。

キーワード：農村地域、結婚市場価値、意識の変容